

特集 粉砕機で作った竹粉で有機栽培

果樹園や庭木の剪定枝、竹林を粉砕機で処理したあとにはチップや粉状のくずが出るが、これも立派な資源として有効活用できる。地面に敷き詰めて雑草を抑えるマルチ材として使ったり、木質バイオマスの燃料として利用することで環境負荷低減にも役立つ。また、木や竹の粉を土壌改良材として利用すれば微生物の動きを活発にし、植物の生長を促すという。有機農業でおいしい野菜を作るため、肥料に竹粉を混ぜているという千葉県流山市の「えか自然農場」取材した。

竹粉でおいしい野菜を

千葉県えか自然農場を取材

東武鉄道アーバンパークラインの流山駅から歩いて15分ほどすると、道路沿いにえか自然農場が見えてくる。アーバンパークラインとは2014年から使われている野田線の愛称だが、名前の通り都市近郊のな農地と住宅が混在している所だ。えか自然農場は、ここ



農場で働く若い力



暗かった竹林も明るく



藤後 マネージャー



小野内社長

100種類にもぼる。農作業している人の多くは障害者で、この日も隣の柏や野田、埼玉、東京などから約40人が通ってきて、元気に作業している。社長の小野内裕治さんは障害者の就労支援を行つた企業向けのコンサルティング事業も行っており、企業などから障害者を農場で受け入れてもらっている。えか自然農場では、収穫したばかりの新鮮な有機野菜を畑の目の前の直売所で販売した



振動も少なく使いやすいという



電子制御でスムーズに竹を粉砕

竹粉には胃酸菌が含まれていることから、土中の微生物を活性化し、農作物の生長を促進する。また、食味や糖度のアップ、病気抵抗性の減少などにも効果がある。今年冬の寒さが厳しく、野菜が高騰しているが、えか自然農場では露地栽培でも出荷できるほど、元気に野菜が育っている。農場では、(株)カルの粉砕機を扱うのは藤後さんだが、使ってみた感



パウダー状に細かく粉砕した竹



太い竹もパワフルに

さらに日常的なメンテナンスを工具なしに行つてくことができ、オイル交換も簡単だという。農場では高齢化や人手不足で手入れができない近隣農家の竹林の管理を任されており、農場の冬場の仕事として竹の伐採と粉砕を行っている。以前は生い茂った竹が高く伸び、日光をさえきっていたため辺りは暗かった。だが、竹を伐採したことでも家にも日が差すようになった農家の女性は「ずいぶん明るくなった」と喜び感謝していた。竹林整備は地域の環境整備の一環でもある。近所の人たちは、将来は一番傘を差して歩けるような竹林にできたら」という夢を描いているという。

木質バイオマスに

剪定枝等の利用も5割増

木質バイオマスエネルギーとして木質チップの需要が急増している。林野庁によると、平成28年にエネルギーとして利用された木質チップは前年比12%増の773万総トン、木質ペレットは34.1%増の21万トと急増。木質チップのうち剪定枝などの木材利用したものは17万総トンで前年より55.7%増加している。木質バイオマスを利用する発電機の数は前年より8基多い240基で、ボイラーの数は27基増の1072基。公共施設や温泉、農業などでも設置する例が増えている。

粉砕から始まるエコロジー

DraCom
KDC-1301B/KDC-1301

最大粉砕径
135mm
チップUP

CHIPSTAR
KSC-1301B/KSC-1301

ナイフ式でスピーディに微粉砕

ハンマー式で釘がついた腐材もOK

排出部のワンタッチスクリーンの変更にチップ粒度調整可能

剪定枝や腐バレット、炭木枠細包材まで粉砕が可能

新型樹木粉砕機登場!!
高調も受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。

株式会社 カルテ

0120-933-090
http://funsaikei.com